

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）		路線名	いくみやえじせん 生実八重地線
事業主体	徳島県		関係市町村	上勝町
事業概要	【目的】 ・本路線は、勝浦郡上勝町大字生実字梅瀬の町道剣山線を起点とし、山犬嶽から高丸山に続く稜線を通過して上勝町大字旭字道辻の町道高丸山線に至る森林基幹道である。 ・周辺の県道、町道、林道に連絡しており、豊富な森林資源に対する合理的な森林経営のための基盤として位置づけられ、森林整備の推進により森林の持つ公益的機能の維持増進を図ることを目的とするとともに、大規模災害時の連絡道路としての利用も期待されている。			
	【内容】			
概要	利用区域面積	1,326ha	[人工林面積:1,075ha (81%)]	
要	受益戸数(森林所有者数)	380戸		
	幅員	4.0m		
	計画延長	17,700m	(うち平成30年度末の供用予定延長 13,096m)	
	総事業費	4,521,989千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 3,335,837千円)	
	事業予定期間	昭和62年度～平成43年度	(45年間)	
評価	【事業の進捗状況】 昭和63年度より工事着工し、平成30年度までに、起点側の生実工区で6,743m、終点側の八重地工区で6,353m、計13,096mが供用が開始され(予定も含む)、進捗率は74.0%となっている。 <div style="text-align: right;">[進捗率:74.0%]</div>			
	【関連事業の整備状況】 供用開始区間においては林業プロジェクトの推進に資するため、平成17年度から平成29年度までに64haの搬出間伐が実施されたほか、今後も低コストで効率的な林業生産が期待される。			
	【社会経済情勢の変化】 本県は県土の75%を森林が占め、人工林率も62%と高い。森林資源は、人工林を中心に、この40年間で約3倍にまで増加しており、特にスギ人工林は、今後5年間で樹齢50年生以上が50%を超え成熟期を迎え、当該路線に係る森林資源についても、人工林面積の91.7%がスギであり、うち47.6%は51年～80年生と、搬出間伐や主伐の適期を迎えている。 県内には製材業や家具製造業のほか、「合板工場」や「MDF工場」、「大型製材工場」など、多様な加工体制を有しており、県産木材の安定供給体制の整備が重要であるが、加えて、国産材需要は増加傾向にあり、川上と川下が一体となった取り組みを総合的に進めることが必要である。 県では平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目的とした「次世代林業プロジェクト」を推進し、木材生産量や林業従事者の増加など成果を上げている。平成27年7月からは林業の一步先の未来を切り開く「新次元林業プロジェクト」を展開、主伐から造林、保育までの「森林サイクル」を取り戻し、雇用の創出とともに、森林資源の循環利用による森林・林業を核とした「地方創生」の実現を目指している。 目標を達成するうえで、主伐にも対応した「新林業生産システム」の導入と併せて、路網整備の推進が必要不可欠となっており、こうした背景のもと当町内林業事業体で高性能林業機械を使用し、積極的に施業に取り組んでいる。			
項目	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し			
	【事業効果の発現状況】 供用を開始した区間において平成29年度までに間伐をはじめとして延べ約1,012haの森林施業が実施され、間伐材の搬出が増え、今後は「新次元林業プロジェクト」により、間伐82ha、材積では6,585m ³ の搬出を計画している。また、供用区間の増加に伴い、森林へのアクセス改善による高性能林業機械を導入した森林施業が行いやすくなることから、森林施業が進んでいく見込みである。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.32 (国の採択基準は1.0以上)</div>			
	【受益者・関係機関の意向】 ・関係町村をはじめ地元より事業の早期完成を強く望まれており、期成同盟会の活動も活発である。 ・また、緊急時の避難路及び迂回路の機能も持ち合わせており注目されている。			
	【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。			